点字図書書き方形式

愛媛県視聴覚福祉センター

（2012.7.1）

1　巻数のまとめ方

1．巻数は原本を単位としてまとめる。したがって原本が分冊されている場合には、通し巻数とはしない。

・原本で、上・中・下３冊の図書が、点訳書で、上・中・下、各５巻になった場合、全１５巻とするのではなく、（上）全５巻、（中）全５巻、（下）全５巻とする。

2．１巻の紙数は、とびら・目次・奥付など全てを含めて５５～８０枚（１１０～１６０ページ）程度にまとめる。

3．原本が点訳書で何巻にもなる場合、章または節で分冊することが望ましい。章または節の途中で分冊するときは、適当な段落を選び、次の巻の始めにその文の属している見出しを再び書き、点訳者挿入符で続きであることを明記する。

4．ファイル名は次のことに注意する

・ファイル名の中にスペースを入れない

・同一原本の中で同じファイル名を用いない。（原本が「上、下」あるいは「1巻、2巻」のように分かれている場合は注意が必要）

ＥＨＩＭＥ1（○）　EHIME-1（○）　ehime_1（○）　愛媛（上）1（○）
えひめ１（○）　ｴﾋﾒＢ－1（○）　ehimehukushi-1（○）　ehime　1（×）

2　とびらの書き方

とびらには原本とびらに記載されている事項を基準に、次の情報を記入する。

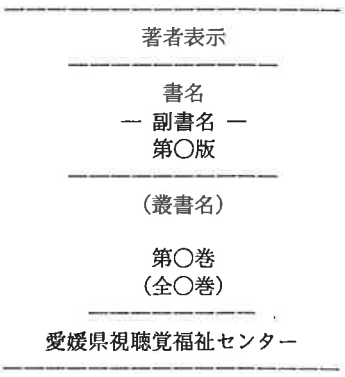
1．著者表示（著者・作者・編者・訳者など）

著・作などの文字も含めて原本のとおりとするが、著者・訳者などが多数の場合、適宜の人数をとって記入することができる。３人以上のときは、代表１人を書き○△他と「ほか」を補記する。また、編者などで１行に入りきらない長い名称の場合、２行目は二マス下げる。

2．書名・副書名・叢書名など

トビラ・奥付に記載されている該当事項をすべて記入する。ただし、判断が付きにくいものは点訳者の考えとする。書名と副書名（前後に棒線を付ける）は内枠内に書き、叢書名は書名枠の下に第１カッコで囲んで書く。

書名が１行に入りきらない場合は、二マスの差を付けて２行目以下を書く。



なお、副書名の書き出し位置は、書名の後二マスあけて書き始めても、レイアウト上、次行の任意な位置から書き始めてもかまわない。

・原本に日本語書名とは別に英語書名等が記載されている場合、その点訳は自由とする。

・文庫名は叢書名欄に書く。　例：（新潮文庫１７）

３．巻数表示

その点訳書が、全何巻中の第何巻目にあたるかを、「ダイ⠼１カン」「⠼ゼン□⠼４カン⠼」のように表示する。ただし、全１巻の図書については「⠼ゼン□⠼１カン⠼」とだけ表示する。

４．製作館名

愛媛県視聴覚福祉センター

＊原本とびらは、視覚に訴えるレイアウトがされている場合が多いので、より正確な書誌情報が盛り込まれている奥付を参照する必要がある。

３　目次の書き方

１．目次は用紙を改め必ずトビラの直後に入れる。

２．点訳書に記入する目次の内容は、その１分冊中に含まれている部分だけとする。また、原本に目次がない場合でも必要に応じて目次を作ることができる。

３．目次は１行目（９マス目）に「モクジ」と書き（書名及び飾り付きの目次の場合もただ「モクジ」とだけ書き）、見出しはその段階に従って書き出し位置に変化をもたせる。

・見出しが１行に書ききれない場合は、本文見出しの書き方に準じ、行末が数符の位置にかからないようにする。

・見出しとページ数の間は②の点（⠐）や③の点（⠰）を打ち、その前後は一マスあけとする。見出しとページ数の間が二マス・三マスの場合はマスあけに代え、一マスの場合は最後の文節から次行に移す。

・ページ数の数符は行末から４マス目に書く。

・目次と本文の見出しが異なる場合は、本文の見出しを優先してよい。

４．見出しが２行以上になり、そのページに入りきらない場合は、見出し全部を次のページに書く。

４　まえがき・序文などの書き方

１．それぞれページや用紙を改めて書く。

（下記の下線のついているものは必ず用紙を改める。）

２．まえがき・序文・献辞・凡例などは、点訳書の第１巻に入れる。それらの記載順序は原本に従い、書き出し位置は原本に則したマスあけとする。なお、献辞は

１行・３マス目から書きはじめる。

３．あとがき・解説などは、最終巻の本文の後ろに入れ、本文と通しページにする。

４．初出一覧・参考文献などは、原本の形式に従って書くことを原則とする。

５．著者（訳者）略歴（紹介）は、原本の記載事項に従って書く。原本によって奥付のページ・とびら裏・ブックカバーなど、記載位置が異なるが、点訳書の最終巻の巻末（奥付の前）に書く。

６．点訳書独自の凡例や留意事項がある場合、点訳書全巻に影響を及ぼす凡例は、「点訳書凡例」として第１巻目の目次の直後に入れる。その場合、用紙を改め、１行目（９マス目）に「テンヤクショ□ハンレイ」と書く。なお、点訳書の中の特定の箇所だけに関する項目の場合は、その箇所で点訳者挿入符を用いて書いてもよい。

５　奥付の書き方

奥付は用紙を改めて書き、各巻に付ける。１行目（９マス目）に「オクヅケ」と書き、原本奥付を先に書く。

１．原本奥付に記載されている内容のうち、次のものを、下記「奥付書き方形式」（基本）に従って書く。なお、項目（カタカナ表示）以外は原本に則した書き方とする。

・書名・副書名・叢書名など（書名と副書名を棒線でつなぎ、副書名のあとを二マスあけて、叢書名を第１カッコで囲んで書く。）（トビラ・奥付に記載されている該当事項をすべて記入する。）

・著者表示（著者・作者・編者・訳者）

・初版と最新版（刷）の出版年月日（刷はズリと書く）

・原本出版社、郵便番号（ユーと書く）・住所・電話番号（複数の場合は適宜）、ホームページアドレス（自由）

・その他（印刷所・定価・ISBN など）（自由）

＊必要な情報は、記載位置（とびらの裏やブックカバーなど）にかかわらず原本奥付に書いてよい。

２．原本奥付のあとに点訳書に関する奥付を記入する。

原本奥付と区別するため線を引き、点訳者名・校正者名（全員）のみを記入する。（その他必要事項は愛媛県視聴覚福祉センターで入力する。）

奥付書き方形式（基本）

□□□□□□□□オクヅケ

□□ショメイ⠒⠒□書名□⠤⠤□副書名□□⠶叢書名⠶の順で続けて書く。

□□チョシャ⠒⠒□著者名（複数名の場合、その間を二マスあけ続けて書く。）

□□ヤクシャ⠀⠀□訳者名（複数名の場合、その間を二マスあけ続けて書く。）
□□ハッコー⠀⠀□（複数ある場合、初版と最新版を書き、初版と最新版の間は二マスあけ続けて書く。〇〇日発行とある場合、発行は書かない。）
□□ハッコージョ⠀⠀□発行所名
□□ユー□郵便番号□□住所
□□デンワ⠀⠀□電話番号
□□□□□□□□⠀⠀⠀⠀⠀⠀⠀⠀⠀⠀⠀⠀⠀⠀⠀⠀⠀⠀⠀⠀⠀⠀□□□□□□□□
□□テンヤクシャ⠀⠀□点訳者名（複数名の場合、その間を二マスあけ続けて書く。）
□□コーセイシャ⠀⠀□校正者名（複数名の場合、その間を二マスあけ続けて書く。）

＊それぞれの項目で１行に入りきらないときは、改行しないで続けて書く。

6　ページの付け方

1．ページ数は必ず各巻ごとにまとめ、全巻通しページとはしない。
2．目次は、１枚の場合はページ付けを省略してもよいが、２枚以上になる場合「モク⠀⠀ モク⠀⠀ モク⠀⠀」のように（２８マス目に）「モク」を前置し、まえがき・序文・献辞などは、下がり数字（⠀⠀ ⠀⠀ ⠀⠀ ⠀⠀ ‥‥）を用いて、本文のページと区別する。これらが１枚に納まる場合は、ページ付けを省略することができる。まえがきなどが本文の内容と連続性が強い場合は、本文と通しページとする。
3．ページ付けは奇数ページだけを記入する。
　あとがき・解説などは、本文と通しページとし、奥付にはページ付けは不要である。なお、パソコン点訳で自動的にページが入る場合は、偶数ページのページ付けを消す必要はない。

7　本文の書き方

1．本文は用紙を改めて１ページとし、１行目に見出しを書く。
2．見出しと見出し・見出しと本文の間は、行あけをしないで書く。
3．見出しの途中でページを替えたり、見出しだけを最終行に書くことはせず、次のページにその見出し全部を移して書く。
4．見出しが変わる場合は、前の本文と見出しの間を１行、もしくは２行あけたり、線を引いたり、その線の次の行をあけたり、原本に応じて最適な方法をとる。なお、本文がページの最後の行で終わった場合、次の見出しは新しいページの１行目から書く。ただし、線を引いている場合は１行目に線を引く。また、原文に準じて大きな区切り目ではページを替えてよい。
5．見出しなどに使う数字やアルファベットの序列を明らかにする必要のある場合には、⠀⠀ ⠀⠀⠀⠀ ⠀⠀⠀⠀⠀⠀ または ⠀⠀⠀⠀ ⠀⠀⠀⠀⠀⠀ ⠀⠀⠀⠀⠀⠀⠀⠀ などの

ように書き表す。その場合、裸の数字やアルファベットとそれに続く語句との間は二マスあけ、ピリオドやカッコ類が付してある場合は、一マスあける。点字仮名を用いる場合には、裸のままでは誤読の恐れがあるので、ピリオドやカッコ類を必ず付して見出しであることを明らかにする必要がある。

……

1　血液

1　血液の組成

1．白血球

a　白血球の種類

ア　好中球

□□□□□□□□⠼1□□ケツエキ

□□□□□□⠼1⠼□ケツエキノ□ソセイ

□□□□□□⠼⠼1⠼□ハッケッキュー

□□□□⠼a□□ハッケッキューノ□シュルイ

□□□□⠼ア⠼□コーチューキュー

……

・見出しの段階を示す編・章・節などの用語が用いられている場合、および数字や記号を付してその段階を明らかに示している場合には、必ずしも行頭のあけ幅に差をつける必要はない。また、見出しのあけ幅は、多くても行頭から８マスくらいまでとする。

・見出しの段階を示すために、漢数字とアラビア数字などの使い分けがされている場合、点字ではそれらの区別がないので、ピリオドを付したり、囲みの記号を用いたりして、段階を明らかにする。

6．書きながしの見出しは、小見出し符類を用いて３マス目から書く。

……

1．一点一画を力強く整然と書く　　漢字の楷書を書くようなつもりできちんと書くことが第一の心得である。

□□⠼1⠼□⠼1テン□⠼1カクヲ□チカラヅヨク□セイゼント□

カク⠼⠼□カンジノ□カイショヲ□カクヨーナ□ツモリデ□

キチント□カク□コトガ□ダイ⠼1ノ□ココロエデ□アル⠼

……

・ 原文が書きながしの見出しであっても、小見出し符類を用いずに、小見出し（５マス目から）の扱いをすることができる。

・小見出し符類を用いた見出しは、そのページの最後の行に書いて差し支えない。

8　挿入文の書き方

原文に他から引用された文や、本文の流れと異なる文が挿入されている場合は、本文との区別を明らかにするように工夫する。

1．原文で文全体が下げて書かれていたり、行あけされていれば、原文のとおりに、文全体を二マス下げたり、前後を行あけしたりして書く。

2．挿入文の始まりと終わりが、カギや棒線などで区別されている場合は、原文のとおりに書く。

3．活字の大きさや字体の変更だけで文が挿入されている場合は、前後を行あけしたり、文全体を二マス下げたりして書く。

・段落単位の引用文などを、段落挿入符類で囲んで書いてよい。

文全体を二マス下げて書くと、前後の本文と区別がしにくい場合や点訳上不都合が生じる場合は、原文と異なっても前や後ろを行あけしてよい。

（行頭を下げる場合、行頭インデントを使用するとよい。）

……

～～～ある区の広報車が次のようなアナウンスを流して、まごつかされた経験がある。

本日、午後１時より５時まで、河田町・若松町・喜久井町…を除く牛込地区の全地域は、水道工事のため断水いたしますので、ご注意願います。

いい加減に聞き流していた人にとっては、「断水」という語を耳にして初めて、～～～

〔例１〕

アル□クノ□コーホーシャガ□ツギノヨーナ□アナウンスヲ□
ナガシテ⠶□マゴツカサレタ□ケイケンガ□アル⠶
□□□□ホンジツ⠶□ゴゴ□⠶１ジヨリ□⠶５ジマデ⠶□
□□カワダチョー⠶□ワカマツチョー⠶□キクイチョー□⠶⠶⠶□ヲ□
□□ノゾク□ウシゴメ□チクノ□ゼンチイキワ⠶□スイドー□
□□コージノ□タメ□ダンスイ□イタシマスノデ⠶□
□□ゴチューイ□ネガイマス⠶
□□□□

□□⠶⠶□ホンジツ⠶□ゴゴ□⠶１ジヨリ□⠶５ジマデ⠶□
カワダチョー⠶□ワカマツチョー⠶□キクイチョー□⠶⠶⠶□ヲ□
ノゾク□ウシゴメ□チクノ□ゼンチイキワ⠶□スイドー□
コージノ□タメ□ダンスイ□イタシマスノデ⠶□ゴチューイ□
ネガイマス⠶□⠶⠶
□□イイカゲンニ□キキナガシテ□イタ□ヒトニ□トッテワ⠶□
⠶ダンスイ⠶ト□イウ□ゴヲ□ミミニ□シテ□ハジメテ⠶□

実物の生々しいコピーを読んでゆきましょう。

果して大型原子炉は公衆に災害をもたらす可能性が絶対的にないと言えるであろうか。

この言葉は原発反対の運動家が叫んでいるものではありません。

〔例１〕

□□ジツブツノ□ナマナマシイ□コピーヲ□ヨンデ□
ユキマショー⠶
□□⠶⠶□ハタシテ□オオガタ□ゲンシロワ□コーシューニ□
サイガイヲ□モタラス□カノーセイガ□ゼッタイテキニ□ナイト□
イエルデ□アローカ⠶□⠶⠶
□□コノ□コトバワ□ゲンパツ□ハンタイノ□ウンドーカガ□
サケンデ□イル□モノデワ□アリマセン⠶

〔例２〕

□□ジツブツノ□ナマナマシイ□コピーヲ□ヨンデ□
ユキマショー⠶
□□□

きは、２行目以下を１行目の書き出し位置と二マスの差をつけるか、１行目と同じ位置に揃えて書く。

＊行末に残すマスの数は二マスにこだわる必要はない。

……

～～～方法だった。み空・み吉野、た走る・た弱女‥‥

（『岩波現代短歌辞典』から）

ホーホーダッタ⠒⠂□□ミソラ⠒⠄□ミヨシノ⠒⠂□タバシル⠒⠄□

タオヤメ□⠒⠄⠒⠄⠒

□□□□⠒⠂⠒⠂イワナミ□ゲンダイ□タンカ□ジテン⠒⠄⠒⠄カラ⠒

……

～～～だからカナは、この場合、すぐれた文字だと言えるのである。

（田中克彦著　『名前と人間』から）

ダカラ□カナワ⠒⠂□コノ□バアイ⠒⠂□スグレタ□モジダト□

イエルノデ□アル⠒

□□□□□□□□□□□□□⠒タナカ□カツヒコ□チョ

□□□□□□□□□□□□□□□⠒⠂ナマエト□ニンゲン⠒⠄⠒⠄カラ⠒□

……

～～～～～老いの防止の一歩は始まるのだといえるのです。

（正高信男著　『老いはこうしてつくられる』から）

オイノ□ボーシノ□⠒⠂１ポワ□ハジマルノダト□

イエルノデス⠒

□□□□□□□□□□□□□⠒マサタカ□ノブオ□チョ

□□□□□□□□□□□□⠒⠂⠒オイワ□コー□シテ□ツクラレル⠒⠄⠒⠄カラ⠒

……

１０　写真・イラストの書き方

写真やイラストは、次のように処理をする。

1．写真やイラストが何の説明もなくカットとして使われているような場合は省略し、必要があれば点訳書凡例で省略したことを明記する。

2．写真やイラストにタイトルや説明文が付いている場合は、段落等の適切な箇所に区切り線を使うなどして本文と区別した上で、タイトルや説明文を書く。その際、点訳者挿入符で囲んで「写真説明」などと付け加える。

3．写真やイラストに何の説明もない場合でも写真やイラストが本文を読み進む上で省略できない場合は、点訳者挿入符で囲んだ説明文を入れる。その際、主観や感想が入らないように、客観的に、写っている事物、人物、背景などを説明するにとどめ、なるべく簡潔な文を心がける。

１１　点訳書凡例・点訳者挿入符について

＊次のようなときに点訳書凡例や点訳者挿入符を用いる

1．歴史的仮名遣いで書かれた文や語句が現代文の中に挿入されていて、その部分を歴史的仮名遣いで点訳した場合
2．主義として歴史的仮名遣いで書かれた現代文を点訳する場合
3．文中注記符を付けた語句がある場合、その説明の記載位置
4．小文字符を用いた場合
5．欠字を表す「□」に伏せ字記号を用いた場合
6．一般書の中に、数学・理科記号など、体系の異なる点字表記の中でも一般的でない記号を用いた場合
7．図や表、グラフ、写真などの処理方法
8．中国・朝鮮の固有名詞の読み方が不明で、日本での読み方や漢字の音読みなどにした場合
9．原文の誤字・誤植と思われるが、断定できない場合で、原文を訂正して点訳した場合
10．欄外見出しを付けた場合の記入方法
11．索引を付けた場合の点訳の方法
12．手を尽くして調べても固有名詞の読み方が不明で、やむを得ず推定読み、または音読みなどにした場合
13．原本の一部を省略したり、内容の順序を入れ換えたりした場合
14．その他、その点訳書だけに通用する記号・符号を、点訳者が作って用いた場合など

・「読み」に関する項目（８．９．１２．）については、十分な調査が前提になる。
・「墨字版」は「原文、原本」、「点字版」は「本書、点訳書、この点訳書」などと書く。

１２　参照ページの書き方

・特に差し支えない場合は点訳書のページだけを入れる。（点訳書凡例で断ったり、ページを点訳者挿入符で囲んだりする必要はない）
・巻数・ページ数を、⠼⠁⠃⠉⠙ のように下がり数字を用いるなどする場合は、点訳書凡例などで断る。
・点訳書ページとともに原本ページも入れる場合は、その入れ方や順序などを点訳書凡例で断る。

１３　索引の書き方

墨字原本に索引が付いているときは、点訳書でも索引を作成する。索引は、点訳書の当該語句や事項の掲載されている巻数・ページ数・行数などをわかりやすく工夫して書き表す。索引の書き方は必要に応じて点訳書凡例などで断る。また、索引だけを別巻にすることもできる。

引きやすい索引を作るためには、原本のレイアウトに準じるか，掲載内容すべてを書くかは考慮する。また、本文修正によりページのズレが生じるので最終確認を必ず行う。

……

「電子マネー」の語句が第１巻２２ページと第２巻８７ページに掲載されている例

デンシ□マネー□⠠⠠⠠□⠤⠠⠠□⠤⠠⠠

「クーリングオフ」の語句が第３巻５９ページ７行目に掲載されている例

クーリング□オフ□⠠⠠⠠□⠤⠠⠠

……

１４　点訳資料製作においての留意点

「より良い」点訳資料を「より速く」「より多く」提供するためには、次の点に留意する必要がある。

１．パソコン点訳ソフトの機能を十分習得すること

・点字入力にあたっては、ＢＥＳの機能を正しく使いこなすことが前提で、ＢＥＳユーザーズガイドを参考に、それぞれの機能を適切に使用すること。
（プログラム→Ｗｉｎ－ＢＥＳ→マニュアル…ユーザーズガイド）

・文書の保管、上書きなどを確実に行う。

・バックアップファイルは必ず作成する。（フロッピーディスクのデータの消滅・パソコンの故障もあり得るのでフロッピーディスクとハードディスクの両方に保存するのが望ましい。）

・改行マーク、改ページマークの機能を理解し、正しく使用する。
　改ページ（マーク）の前には、改行（マーク）を入れない。
　改行マークの前に余分なスペースは入れない。

・ページ番号付加機能を正しく活用する。

・検索・置換・コピー・移動・削除・文書結合・分割などの機能を有効に活用する。

２．下読み・下調べの徹底

・点訳を想定しながら原文を十分に下読みし、難読語（特に固有名詞）や疑問点・問題点などを抜き出し、下調べ表、あるいは墨点字を印刷した用紙に直接書き込むなどする。

（「下調べ表」への記入については、各グループ内で決める）

３．見直しの徹底

見直しとそれに伴う修正が徹底していれば、不注意によるミスはずいぶん防ぐことができる。

・仮名印刷や仮名表示画面による見直しでは、ごく基本的な分かち書きや切れ続きの誤りを見落とすことが多くなるので注意を払う。

・誤字・誤読・脱字・脱文等は仮名で読み直しを行っても、点字表記に関する部分（墨字表記ではきちんと表示されないレイアウトに関する部分や、記号・アルファベット等）は、必ず点字画面での確認を行う。

・長音・タ行の連濁・同音の連呼・固有名詞の仮名遣い、数字と仮名の書き分け、外字符と外国語引用符の使い分けの確認。

・記号類の使い方・前後の分かち書き・記号間の優先順位などに注意。

・行替え・ページ替えの個所・文の書き始めや段落で行頭を二マスあけてあるか、見出しの大きさによる行頭のマスあけが正しくされているかの確認。

・点訳者挿入符は、必要な箇所にだけ入っているか、説明が簡潔で分かりやすいかなどを見る。

・ルビの扱い（促音など同じ大きさになっている小文字など）や誤植の扱いは適切に処理されているかの確認。

４．誤字

パソコン画面を見ながら行う校正では、誤字があっても前後の文脈で見落としてしまう場合も多いので、校正では文をスラスラと読んでしまわないこと。

５．脱字・脱語・脱文等

助詞・助動詞の脱字・余字・記号等の脱落は見落としやすいので注意。特に濁点と読点は漏れたり、余分に付けたりする場合が多く見られる。また、似たような語が、隣り合う行の同じような位置に出てきたときは、行の脱落や重複に注意。

６．誤読

・思い込みで読んでしまわないように注意する。

・時代とともに一般的な読みが変わってくる語もあるので国語辞典で調査することが大切。

７．校正

上記の〔３～６〕を踏まえながら慎重に行う。

・校正は、最低２回（一次校正・二次校正を別校正人により）

・各校正者ごとにマーカーの色を変える（鉛筆は不可）

・チェックは大きくはっきり付ける

続ける（ー）・分かち書きをする（｜）等、また、見落としやすいものには右側の余白に〇印を入れるなどし、指摘箇所を明確にする。（その方法は各グループ内で決める。）

・疑問に感じた箇所は必ず指摘する。

読みについては、文脈にあった読みをしているか注意し、どちらの読みでもよい場合は、点訳者の読みを尊重するが、点訳者の読みに一貫性がない場合は機械的に統一した読みがよいかどうかを十分注意してチェックする。

・1タイトルの分割校正は避ける。

8．修正

・指摘箇所を原本と照合のうえ慎重に修正する。

・校正者の指摘が正しいかどうか熟考し、疑問点は校正者等と解決した上で、修正する。

・修正によって行が変わってくる場合があるので、次の点を確認する。

見出しが一番下の行にきていないか

見出しの前の行あけが1行目にきていないか

目次と本文のページがずれていないか

参照・索引ページなどがある場合、該当するページが変わっていないか

情報処理用点字の行継続符や点字数学・理科記号の行末のつなぎ符、外国語で分綴のために用いたハイフンなどの位置は適切か

奥付にページが入っていないか、改ページマークは適切か、など

・提出前にフロッピーディスクを書き込み不可にし、再度ページのズレ等を確かめる。

9．完成フロッピーディスク提出

「フロッピーディスク」とは別送で、「原本」「●」を提出する。

●「使用した辞書名」「固有名詞など調べても分からなかった読み」「疑問点・問題点」等を記した下調べ表など（原本に直接記入するか、付箋紙を付けたりして、最終校正者に分かるようにしたもの）。

＊データは、受け入れカードが届くまで保存しておく。

10．最終校正

最終校正は原本とフロッピーディスクで行い、最終校正者が修正する。

＊訂正箇所は、その語が含まれる行を“見出し指定”のように色変換をしている。なお、問い合わせ等の回答は、原本返却がある場合は書面にて、また、ＦＤのみの場合はファイル名「回答」で、データ（メモ帳）にて行う。

11．点訳資料の返却

訂正済みデータの指摘箇所（色変換部分）を訂正前のデータ（または一・二校

時の墨点字用紙）と照合し、問題がなければＦＤを初期化して次の点訳に使う。なお、訂正済みデータに問題があった場合は速やかに連絡する。

１５　その他

1．全巻を通し、とびら・奥付・目次・本文など書き方を統一する。

2．「目次終わり」「第 1 巻終わり」「第 2 巻につづく」等、原本に記入されていないことは書かない。

3．用紙替えの後は奇数ページ（パソコンのページ）で始める。偶数ページになるときは、改ページキーで空白ページを作る。

4．判断に迷う分かち書き等について

・基本的に「点字の手びき」に従っていれば良い。微妙な点については、各点訳書で統一が取れていれば良い。（微妙なマス空けについて、各グループで細かなルールを決めておくと点訳・校正がスムーズにいく。）

・「点字の手びき」と「点字表記辞典」の内容が異なる場合は 1 タイトル中で統一すればどちらを採用してもよい。

・接頭語・接尾語は、『点字の手びき』や『点字表記辞典』等に掲載されている例以外は、点訳者の考えとする

・2 拍以下の繰り返し言葉で、自立可能な意味の成分からなる繰り返し言葉なのかどうかはっきりしない場合、辞書に一語として掲載されていれば一続きに書いてもよい。

・一つの文の中に、カギ類で囲んだ「文」と「語句」が混在して並列する場合、一マスあけにするか、二マスあけにするかは点訳者の考えとする。

・現代文に出てくる「候、奉る」などは、独立の動詞であれば前を区切って書き、動詞の連用形に続いている場合は一続きに書くことを原則とする。

《例》

実現□いたしたく□候　　申すべく□候　　お願い□奉る

存じ奉り候　　参り候　　願い上げ奉り候

・中点の扱いに迷う場合は原本のとおりとする。（特に外国語などでマスあけに置き換えられるかどうかの判断が難しいとき、等々）

・「アイルランド」「グリーン　ランド」などの「ランド」は、『点字の手びき』31 ページ３、39 ページ４【備考１】に準じる。

・「○○○１」は、一語として使い慣れている語（日本一・世界一・三国一）及び省略語（朝一など）だけ続けて書き、その他は区切って書く。なお、助詞が後ろにくる場合も、同じ扱いをする。

《例》

世界⠷⠶の　　市内□⠷⠶　　クラス□⠷⠶

5．詩や俳句・短歌などの作者名は行末近くに書くことを原則とする。

6．レイアウトについて

・書き方に幅のあるレイアウトに関する部分は、原本に応じて最適な方法で点訳する。

・１冊の本の中で矛盾のない限り、できるだけ点訳者のレイアウトを尊重する。

・レイアウトが難しそうな場合は、あらかじめ経験豊富な点訳者と相談しておく。

・原本のレイアウトと必ずしも一致させる必要はない。（手紙や詩や系図など）

詩歌・戯曲などの書き方例

1．詩（手びき　６９ページ）

……

おかあさんのたまごやき

あだちけいいち

僕のおかあさんは
たまごやきが
とってもじょうずだよ
たまごをひっくりかえすとき
おかあさんもいっしょに
とびあがるんだよ
そうすると
あまくてふわふわのたまごやきが
できるんだよ

□□□□□□オカアサンノ□タマゴヤキ
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□アダチ□ケイイチ□
□□ボクノ□オカアサンワ
□□タマゴヤキガ
□□トッテモ□ジョーズダヨ
□□タマゴヲ□ヒックリカエス□トキ
□□オカアサンモ□イッショニ
□□トビアガルンダヨ
□□ソー□スルト
□□アマクテ□フワフワノ□タマゴヤキガ
□□デキルンダヨ

……

山のあなたの空遠く
「幸」住むと人のいう。
噫、われひとと尋めゆきて、
涙さしぐみ、かえりきぬ。
山のあなたになお遠く
「幸」住むと人のいう。　　（カール・ブッセ）

□□□□ヤマノ□アナタノ□ソラ□トオク
□□□□⠶サイワイ⠶□スムト□ヒトノ□イウ⠶
□□□□アア⠶□ワレ□ヒトト□トメユキテ⠶

□□□□ナミダ□サシグミ⠒□カエリキヌ⠒
□□□□ヤマノ□アナタニ□ナオ□トオク
□□□□⠒サイワイ⠒□スムト□ヒトノ□イウ⠒
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□⠒カール□ブッセ⠒□□

……

一　春高楼の花の宴
　　めぐる盃影さして
　　千代の松が枝わけ出でし
　　昔の光今いずこ

（土井晩翠）

⠒1　□□ハル□コーローノ□ハナノ□エン
□□□□メグル□サカズキ□カゲ□サシテ
□□□□チヨノ□マツガエ□ワケイデシ
□□□□ムカシノ□ヒカリ□イマ□イズコ
□□□□□□□□□□□□□□□□□□⠒ドイ□バンスイ⠒□□□

……

夏の朝

日が上る。
どこかで、せみが鳴きだす。
しんじゅのようなつぶが一つぶ、
朝顔の葉から落ちる。
青い千代紙を張りつめたような空の色。
このまま、アルバムに張り付けておく方法はないかなあ。

（小学国語教科書から）

□□□□□□ナツノ□アサ
□□ヒガ□ノボル⠒
□□ドコカデ⠒□セミガ□ナキダス⠒
□□シンジュノヨーナ□ツブガ□ヒトツブ⠒
□□アサガオノ□ハカラ□オチル⠒
□□アオイ□チヨガミヲ□ハリツメタヨーナ□ソラノ□イロ⠒
□□コノママ⠒□アルバムニ□ハリツケテ□オク□ホーホーワ□
ナイカナア⠒
□□□□□□□□□□⠒ショーガク□コクゴ□キョーカショカラ⠒

……

茂作じいさん

茂作じいさんは、歯が１本もない。

茂作じいさんは、９５才だ。
茂作じいさんは、１日家の前でおきをながめている。
ときどき、古ぼけた望遠鏡をのぞいては、
もごもご、何かつぶやいている。

（小学国語教科書から）

□□□□□□モサク□ジイサン
□□モサク□ジイサンワ⠶□ハガ□⠶１ポンモ□ナイ⠶
□□モサク□ジイサンワ⠶□⠶９５サイダ⠶
□□モサク□ジイサンワ⠶□⠶１ニチ□イエノ□マエデ□
□□□□オキヲ□ナガメテ□イル⠶
□□トキドキ⠶□フルボケタ□ボーエンキョーヲ□
□□□□ノゾイテワ⠶
□□モゴモゴ⠶□ナニカ□ツブヤイテ□イル⠶
□□□□□□□□□□□⠶ショーガク□コクゴ□キョーカショカラ⠶

老いた船

老いて朽ちた船に、思い出が乗っている。
それは重量のない積み荷　――
日差しのなかの砂州、船首への波のロづけ、
真夜中の嵐の思い出と
語られることなく終わった物語が乗っている。
老いた船は覚えていた、暁の島影、マストに風が
　　めっぽう強かった岬、キールを失った
波高き海峡、星々、しじま、青い夜。

船が、陸地や荒れた大海や、
　　かれらを鍛えた風を忘れるなどと思ってはならない。

デイヴィッド・モートン

□□□□□□オイタ□フネ
オイテ□クチタ□フネニ⠶□オモイデガ□ノッテ□イル⠶
ソレワ□ジューリョーノ□ナイ□ツミニ□⠶⠶
ヒザシノ□ナカノ□サス⠶□センシュエノ□ナミノ□クチヅケ⠶
マヨナカノ□アラシノ□オモイデト
カタラレル□コト□ナク□オワッタ□モノガタリガ□ノッテ□
□□イル⠶
オイタ□フネワ□オボエテ□イタ⠶□アカツキノ□シマカゲ⠶□

□□マストニ□カゼガ
□□□□メッポー□ツヨカッタ□ミサキ⠶□キールヲ□ウシナッタ
ナミ□タカキ□カイキョー⠶□ホシボシ⠶□シジマ⠶□アオイ□
□□ヨル⠶
□□□□

……

石崖に子ども７人腰かけて河豚を釣り居り夕焼け小焼け　　北原白秋

□□イシガケニ□コドモ□⁝７ニン□コシカケテ
□□□□フグヲ□ツリオリ□ユーヤケ□コヤケ
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□⁝キタハラ□ハクシュー⁝□

……

長く長く忘れし友に
会うごとき
よろこびをもて水の音聴く

（石川啄木）

□□ナガク□ナガク□ワスレシ□トモニ
□□アウゴトキ
□□ヨロコビヲ□モテ□ミズノ□オト□キク
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□⁝イシカワ□タクボク⁝

……

アルチュール・ランボー百年忌
電子メールゆきかふ空のほのあかりランボー死してのち百年

（小島ゆかり）

□□□□アルチュール□ランボー□⁝１００ネンキ
□□デンシ□メール□ユキカウ□ソラノ□ホノアカリ□ランボー□
シシテ□ノチ□⁝１００ネン
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□⁝コジマ□ユカリ⁝□□

……

阪神淡路大震災
宝塚の友より届くファックスに「幸運」とあり家をなくせど

俵　万智

□□⁝ハンシン□アワジ□ダイシンサイ⁝
□□タカラヅカノ□トモヨリ□トドク□ファックスニ□
⁝コーウン⁝ト□アリ□イエヲ□ナクセド
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□タワラ□マチ□□

……

水原秋桜子

啄木鳥や落ち葉をいそぐ牧の木々

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□ミズハラ□シューオーシ□□
□□キツツキヤ□オチバヲ□イソグ□マキノ□キギ

……

赤とんぼ筑波に雲もなかりけり

（正岡子規）

□□□□アカトンボ□ツクバニ□クモモ□ナカリケリ

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□マサオカ□シキ□□

……

3．脚本（戯曲）・対談など（手びき７０ページ）

……

リヤ王物語

第１幕　リヤ王の宮殿

合図のラッパが吹奏される。リヤ王を先頭に３人の娘（ゴナリル、リーガン、コーディーリア）、その他、重臣ケントをはじめ大勢の家臣が登場する。

リヤ王　皆の者も知っているとおり、フランス王とバーガンディ公がコーディーリアを嫁にほしいと言ってきておられる。そのご返事をする前に、今後だれがわしにもっとも孝養を尽くしてくれるか話してもらおう。こころがけのよい者にはその分に応じて領地をさずけたい。

ゴナリル　わたしは言葉では言えないほどお父様のことを思っています。

コーディーリア　（独白）わたしは何と言おう。心からお仕えしたいのだけれど。

リヤ王　（地図をさしながら）よく言った。お前には、この境界線の中の領地をやろう。（以下略）

□□□□□□□リヤオ一□モノガタリ

□□□□ダイ□１マク□□リヤオーノ□キューデン

□□□□□アイズノ□ラッパガ□スイソー□サレル□□

リヤオーヲ□セントーニ□□３ニンノ□ムスメ□ゴナリル□□

リーガン□□コーディーリア□□□ソノタ□□ジューシン□ケントヲ□

ハジメ□オオゼイノ□カシンガ□トージョー□スル□□□□

□□リヤオー□□□ミナノ□モノモ□シッテ□イル□トオリ□

フランスオート□バーガンディコーガ□コーディーリアヲ□

ヨメニ□ホシイト□イッテ□キテ□オラレル□□□ソノ□

ゴヘンジヲ□スル□マエニ□□コンゴ□ダレガ□ワシニ□

モットモ□コーヨーヲ□ツクシテ□クレルカ□ハナシテ□モラオー□□□

ココロガケノ□ヨイ□モノニワ□ソノ□ブンニ□オージテ□

リョーチヲ□サズケタイ□

□□ゴナリル⠒⠒□ワタシワ□コトバデワ□イエナイホド□
オトーサマノ□コトヲ□オモッテ□イマス⠒
□□コーディーリア⠒⠒□⠒ドクハク⠒□□ワタシワ□ナント□
イオー⠒□□ココロカラ□オツカエ□シタイノダケレド⠒
□□リヤオー⠒⠒□⠒チズヲ□サシナガラ⠒□□ヨク□イッタ⠒□□
オマエニワ⠒□コノ□キョーカイセンノ□ナカノ□リョーチヲ□
ヤロー⠒□□⠒イカ□リャク⠒

……

遊び人のススメ

今井　この本の巻頭に仕事に対する私の考えを書いたんです。

永　　ぼくね、仕事っていうことばが理解できていないんですね。

今井　私としては永さんは分刻みで動いている日本一忙しい人というイメージがありますが。

永　　あそこで遊ばしてもらった、ここでも遊ばしてもらったという実感には溢れていますよ。

□□□□□□アソビニンノ□ススメ
□□イマイ⠒⠒□コノ□ホンノ□カントーニ□シゴトニ□タイスル□
ワタクシノ□カンガエヲ□カイタンデス⠒
□□エイ⠒⠒□ボクネ⠒□シゴトッテ□イウ□コトバガ□
リカイ□デキテ□イナインデスネ⠒
□□イマイ⠒⠒□ワタクシト□シテワ□エイ□サンワ□
フンキザミデ□ウゴイテ□イル□ニホン⠒1□イソガシイ□
ヒトト□イウ□イメージガ□アリマスガ⠒
□□エイ⠒⠒□アソコデ□アソバシテ□モラッタ⠒□ココデモ□
アソバシテ□モラッタト□イウ□ジッカンニワ□アフレテ□
イマスヨ⠒

……

機の音（放送劇）　　木下　順二

登場人物

座頭　　頭目　　盗賊たち　　娘　　解説者

音楽（テーマ）

解説者　（音楽を下に持って）　深い山の中に一人で立っていると、谷川の流れや松風の音に混じって、ある一つの音が耳の底に響いているのに気がついたことはありませんか。それは何の音で、どうして聞こえてくるのでしょう。

効果（音楽と入れかわって）船べりに当たる間断ない波の音。

解説者　第一の物語。

男たち　（どっと笑う。）

男１　本当か、そらあ。本当に頭目がそう言ったのか。

男２　本当よ。海の上の荒かせぎもそろそろ飽きたから、おかに上がって山賊になろうと……。

男１　おい頭目、そら本気か。

頭目　（どなる）　うるさいわ。

波の音　（以下略）

□□□□□□ハタノ□オト⠶ホーソーゲキ⠶

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□キノシタ□ジュンジ□□

□□□□トージョー□ジンブツ□⠶⠶□ザトー□□トーモク□□

□□□□□□トーゾクタチ□□ムスメ□□カイセツシャ

□□⠶⠶□オンガク□⠶テーマ⠶□⠶⠶

カイセツシャ□□⠶オンガクヲ□シタニ□モッテ⠶□□フカイ□

□□ヤマノ□ナカニ□ヒトリデ□タッテ□イルト⠶□タニガワノ□

□□ナガレヤ□マツカゼノ□オトニ□マジッテ⠶□アル□

□□ヒトツノ□オトガ□ミミノ□ソコニ□ヒビイテ□イルノニ□

□□キガ□ツイタ□コトワ□アリマセンカ⠶□□ソレワ□ナンノ□

□□オトデ⠶□ドー□シテ□キコエテ□クルノデショー⠶

□□⠶⠶□コーカ□⠶オンガクト□イレカワッテ⠶□フナベリニ□

アタル□カンダン□ナイ□ナミノ□オト⠶□⠶⠶

カイセツシャ□□ダイ⠶１ノ□モノガタリ⠶

オトコタチ□□⠶ドット□ワラウ⠶⠶

オトコ□⠶１□□ホントーカ⠶□ソラア⠶□□ホントーニ□

□□トーモクガ□ソー□イッタノカ⠶

オトコ□⠶２□□ホントーヨ⠶□□ウミノ□ウエノ□アラカセギモ□

□□ソロソロ□アキタカラ⠶□オカニ□アガッテ□サンゾクニ□

□□ナロート□⠶⠶⠶⠶

オトコ□⠶１□□オイ□トーモク⠶□ソラ□ホンキカ⠶

トーモク□□⠶ドナル⠶□□ウルサイワ⠶

□□⠶⠶□ナミノ□オト□⠶⠶

□□⠶イカ□リャク⠶

……

文書情報編集

項目の移動は Tab、Shift＋Tab を使います。

Shift＋F11 で点字／カナ／かな／英字表示が可能ですから読みやすい表示に切り換えて下さい。修正には、← →、上書／挿入、削除・後退キーを使用することができます。

「原本タイトル」および「備考」欄は５０マス用意されています。画面表示は２行に分かれていますが、横一列につながっているものと考えて下さい。１行目の行末から２行目の行頭に文節が分かれて表示されても、そのままにしておきます。

出版年は、西暦下２桁 （昭和２６年→１９５１年 ⠼⠁⠑）

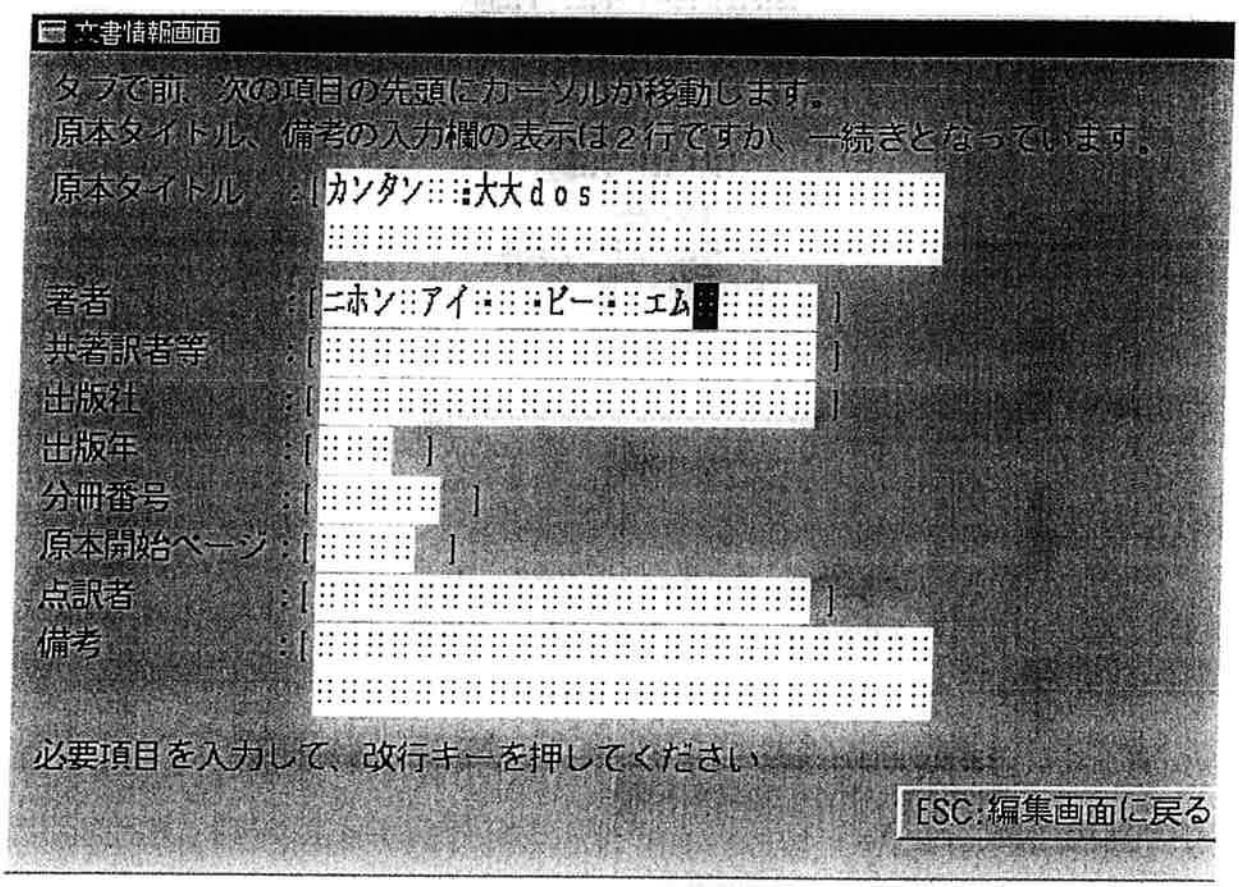
分冊番号は、巻数（第３巻なら ⠼⠉⠴⠴⠴）

原本開始ページは、各巻の１ページ目が原本の何ページにあたるかを記入します。ただし、第１巻は原本開始ページを１とします。

点訳者は、愛媛県点字図書館の略称「エヒメ□テント」とします。

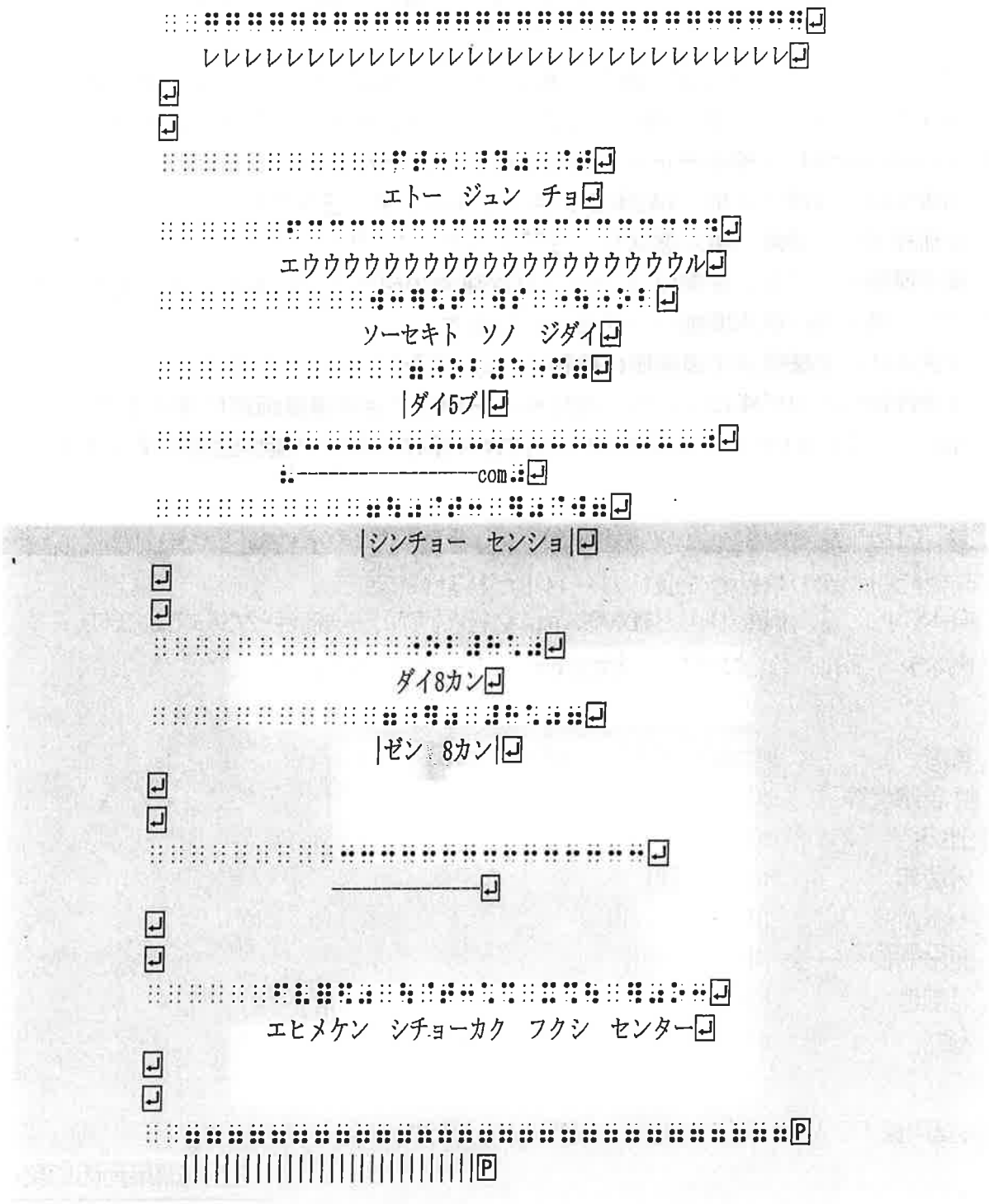
文書情報の入力が終わったら、改行キーを押して点字編集画面に戻ります。

Esc キーまたは[キャンセル]を押すと内容を保存しないで編集画面に戻ります。



※原本タイトルの書き方は奥付に準拠してください。

２４～３５ページに、とびら・目次・本文（１ページ目）・奥付の基本的な書き方を例示しました。これらの書き方は、「それ以外の書き方が誤りである」という性格のものではありません。これらを基に全巻の統一を保ち、原本の内容と点字の読みやすさを配慮しながら点訳してください。



漱石とその時代（第五部）〈新潮選書〉
著者 ― 江藤淳

⠶⠶⠶

⠀⠀⠀

⠀⠀⠀

（第１巻の目次）

モクジ↵

ハジメニ …… ―↵

ダイ1ショー　ニンゲン　アラカルト　1↵

1　ビジンカ　ドーカワ　ジョーキョー↵

シダイ …… 1↵

2　ミギモ　ヒダリモ　ビョーニンダラケ　46↵

ダイ2ショー　チンパンジー …… 79↵

1　ホニュールイ　ーー　ワレラノ　ナカマ　ッッ　101↵

モクジ↵

ハジメニ …… ―↵

↵

ダイ1ショー　ニンゲン　アラカルト　1↵

1　ビジンカ　ドーカワ　ジョーキョー↵

シダイ …… 1↵

2　ミギモ　ヒダリモ　ビョーニンダラケ　46↵

↵

ダイ2ショー　チンパンジー …… 79↵

1　ホニュールイ　ーー　ワレラノ　ナカマ　ッッ　101P

（第２巻以降で、章の途中で分冊した目次）

モクジ↵

ダイ3ショー　ハイシャノ　シコーホー↵

||ツヅキ||↵

1 … チョーセン ||ツヅキ|| … 1↵

ニチベイノ　ガイヤノ　シュビ　イチ …… 1↵

ミスヲ　ユルセルカ、　ハプニングヲ↵

ヨロコベルカ …… 30↵

2 … ハイシャト　ショーシャノ↵

キョーカイセン …… 51↵

（見出しに点線が使われている目次）

モクジ↵

ダイ5ショー　ワタル　セケンワ↵

ボケバカリ↵

ヨナカノ　ビョーシツニ　ヒビキワタル↵

<モノオト>　ワワワワワワワワワワワワ　1↵

ベッドノ　トナリニ　ハダカノ↵

オジイチャンガ … ワワワワワワワワ　25P

（空白・中点・／などを使い、続けて書かれていて、ページ数は書かれていない）

モクジ↵

ダイ2ワ　100ネン　タンイデ↵

カンガエル …… 1↵

ゲッキュー　80_エンノ　ショクタク↵

キョーイン …… 1↵

12カイ　サイゴノ　ヒ …… 14↵

100ネン　タンイデ　カンガエル …… 34↵

チューゴクゴヤクノ　_ソーセキ_ …… 67↵

メイジノ　ブンゴー・　ショーワノ↵

ブンゴー …… 93↵

※ 原本の目次にページ数が付いていなくて項目だけの場合も、ページ数を入れる。ただし、「編・章・節」などの大見出しが重なって付いていて、同じページに入るような場合は、原本に数字がなければ、原本通りでもよい。

（第１巻・本文１ページ目）

第一章　折り返し点から

折り返し点

宮城県知事に就任してから二年が過ぎた。

ダイ1ショー　オリカエシテンカラ⏎

オリカエシテン⏎

ミヤギケン　チジニ　シューニン　シテカラ　2ネンガ

スギタ。⏎

まえがき――巨泉になりたい人へ

２０世紀も残り少なくなった 1999 年、ボクはある出版社からアプローチされた。

マエガキ　ーー　キョセンニ　ナリタイ　ヒトエ⏎

20セイキモ　ノコリ　スクナク　ナッタ　1999ネン、

ボクワ　アル　シュッパンシャカラ　アプローチ　サレタ。⏎

（第２巻以降・本文１ページ目）

第四章　死の谷

海岸を削り、海からクルーザーで直接入れるように造られた別荘である。

ダイ4ショー　シノ　タニ↵

カイガンヲ　ケズリ、　ウミカラ　クルーザーデ

チョクセツ　ハイレルヨーニ　ツクラレタ　ベッソーデ　アル。↵

第３章　遺言がないために起こった悲劇

姑を献身的に介護しても嫁に相続権はない

寝たきり老人になるのは辛い。しかし、その寝たきり老人を介護するものはもっと辛いかも知れないと思います。

ダイ3ショー　ユイゴンガ　ナイ　タメニ↵

オコッタ　ヒゲキ　||ツヅキ||↵

シュートメヲ　ケンシンテキニ　カイゴ　シテモ　↵

ヨメニ　ソーゾクケンワ　ナイ　||ツヅキ||↵

ネタキリ　ロージンニ　ナルノワ　ツライ。　シカシ、　ソノ

ネタキリ　ロージンヲ　カイゴ　スル　モノワ　モット

ツライカモ　シレナイト　オモイマス。P

オクヅケ↵

ショメイ… トーソー |コーダンシャ ブンコ|↵

チョシャ… B キャムベル↵

ヤクシャ… キタザワ アカネ↵

ハッコー… 1997ネン 5ガツ 15ニチ

ダイ1ズリ 2000ネン 8ガツ 17ニチ

ダイ2ズリ↵

ハッコージョ… カブシキガイシャ コーダンシャ↵

ユー 112_01 トーキョート ブンキョーク

オトワ 2_12_21↵

デンワ: エイギョーブ 03 |3815|

1666 ヘンシューブ 03 |3815| 1827↵

----------↵

テンヤクシャ… エヒメ ケンタロー↵

コーセイシャ… マツヤマ ハナコ ホンマチ トオル↵

⠠⠠⠠

オクヅケ

ショメイ… ジカント イウ タカラ ーー シアワセニ

ナリタイ ヒトノ ジカンノ カツヨー |シンコート セイカツ

シリーズ 10|

チョシャ… ナカイ トシミ

ハッコー… 2003ネン 2ガツ 28ニチ

ダイ1ズリ

ハッコージョ… クスノキ シュッパン

ユー 870_0829 オオイタシ ミヨシ

878バン 32

デンワ・ ファックス: 097_547_0741

'http:・・ststwwwddoct-netddneddjpst:・can

:kusubookst"

ISBN 4_907754_10_8

テンヤクシャ… エヒメ ケンタロー

コーセイシャ… マツヤマ ハナコ ホンマチ トオル

単位記号の書き方

1．アルファベットで始まる単位は、外字符（⠰）を前置し、大文字にはそれぞれ大文字符（⠠）を前置する。

2．アルファベットで始まる単位に含まれる漢字や仮名は第１カッコ（⠷～⠾）で囲む。また、第１カッコの閉じまでをアルファベットの単位の続きとして扱い、あとに助詞・助動詞が続く場合は閉じカッコの後ろを一マスあける。

10m／秒の速さ　〔⠰⠁⠍⠸⠌⠎⠷⠚⠉⠁⠾□ノ□ハヤサ〕

3．漢字や仮名で書き表された単位は、複合名詞の切れ続きに準じて書くことを原則とする。

10 メートル毎秒　〔⠰⠁⠍⠷⠍⠑⠞⠗⠾□マイビョー〕
160 水銀柱ミリメートル〔⠰⠁⠍⠷⠍⠑⠞⠗⠾□スイギンチュー□ミリメートル〕
3 キログラムウエイト〔⠰⠁⠍⠷⠅⠊⠛⠗⠾□ウエイト〕
1 香港ドル〔⠰⠁⠍⠷⠓⠕⠍⠾□ホンコン□ドル〕

長さ

⠰⠅⠍　ｋｍ（キロメートル）　⠰⠍　ｍ（メートル）
⠰⠉⠍　ｃｍ（センチメートル）　⠰⠍⠍　ｍｍ（ミリメートル）
⠰⠍⠍　μ（ミクロン）　⠰⠝⠍　ｎｍ（ナノメートル）

面積

⠰⠅⠍⠘⠃　ｋ㎡（平方キロメートル）　⠰⠍⠘⠃　㎡（平方メートル）
⠰⠉⠍⠘⠃　ｃ㎡（平方センチメートル）　⠰⠓⠁　ｈａ（ヘクタール）
⠰⠁　ａ（アール）

体積

⠰⠍⠘⠉　㎥（立方メートル）
⠰⠉⠍⠘⠉　ｃ㎥（立方センチメートル）
⠰⠅⠇　ｋｌ（キロリットル）　⠰⠇　ｌ（リットル）
⠰⠙⠇　ｄｌ（デシリットル）　⠰⠍⠇　ｍｌ（ミリリットル）
⠰⠉⠉　ｃｃ（シーシー）

質量・密度

⠰⠅⠛　ｋｇ（キログラム）　⠰⠛　ｇ（グラム）
⠰⠍⠛　ｍｇ（ミリグラム）　⠰⠞　ｔ（トン）
⠰⠅⠛⠸⠌⠍⠘⠉　ｋｇ／㎥（キログラム毎立方メートル）

温度

⠰⠉⠴⠉　℃（度〔セ氏度〕）　⠰⠅　Ｋ（ケルビン）

音

⠰⠙⠴⠃　ｄＢ（デシベル）　⠰⠓⠕⠝　ｐｈｏｎ（ホン）